

PAT-NO: JP02002065768A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002065768 A
TITLE: PET'S ASHES HOUSING TOOL
PUBN-DATE: March 5, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME **COUNTRY**
YOKOTA, TADAHIRO N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME **COUNTRY**
YOKOTA TADAHIRO N/A

APPL-NO: JP2000262636

APPL-DATE: August 31, 2000

INT-CL (IPC): A61G017/08 , A63H003/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pet's ashes housing tool which calms down the mind of the keeper for preventing him/her from mental depression by simulating the appearance of the pet, which was kept long, so as to feel attachment.

SOLUTION: The appearance of the pet's ashes housing tool 1 is formed to be a doll similar to the appearance of the pet kept actually. A housing part 3 into which a container 5 containing pet ashes 7 can be inserted from outside and housed is provided in it. The opening part 3-1 of the part 3 is covered with an openable/closable cover part 4. The part 4 keeps the covering state by engaging bodies 8 and 9 engaged with each other.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-65768

(P2002-65768A)

(43)公開日 平成14年3月5日(2002.3.5)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト [*] (参考)
A 6 1 G 17/08		A 6 1 G 17/08	J 2 C 1 5 0
A 6 3 H 3/00		A 6 3 H 3/00	M

審査請求 有 請求項の数1 OL (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2000-262636(P2000-262636)

(22)出願日 平成12年8月31日(2000.8.31)

(71)出願人 597047565

横田 忠洋

埼玉県狭山市鶴ノ木25-9-2-404

(72)発明者 横田忠洋

埼玉県狭山市鶴ノ木25-9-2-404

(74)代理人 100093610

弁理士 本庄 富雄

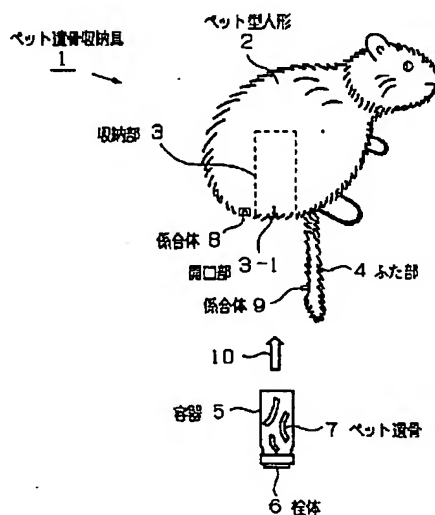
Fターム(参考) 2C150 BC06 CA02 DD06 DD14 DD22
DD24

(54)【発明の名称】 ペット遺骨収納具

(57)【要約】

【課題】 従来のペット遺骨収納具の外観は、十字架状をしたものとか板状をしたものであった。その中に遺骨や遺品を収納し、身近に置くことが出来るとはいうものの、飼っていたペットの姿とはおよそかけ離れた外観をしたものであったので、愛撫して長年暮らしたペットを偲ぶにはリアルさに欠け、いまひとつ心を慰めるものとはなっていなかった。

【解決手段】 ペット遺骨収納具1の外観を、実際に飼っていたペットの外観に似た人形とする。そしてその内部に、ペット遺骨7を入れた容器5を外部から挿入し収納し得るようにされた収納部3を設ける。収納部3の開口部3-1は、開閉自在とされたふた部4で塞ぐ。ふた部4は、互いに係合する係合体8、9で塞いだ状態を保持する。このペット遺骨収納具1は、外観が飼っていたペットに似せてあるので、より一層愛着感を感じさせ、飼い主の心を和ませ、精神的に落ち込むことを防ぐことが出来る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外観が実際のペットによく似せて作られたペット型人形と、ペットの遺骨や遺品を入れる容器と、前記ペット型人形の内部に設けられ、前記容器を外から挿入し収納し得るようにされた収納部と、該収納部の開口部を開閉自在に塞ぐふた部とから成ることを特徴とするペット遺骨収納具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、犬、猫、ハムスター等のペットの遺骨（遺灰）や遺品等を収納するペット遺骨収納具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年では、生活にゆとりが出来て来ると共に、核家族化の進行も加わり、ペットを飼う人が多くなって来ている。そのような人にとっては、ペットは日々の生活を慰めてくれるかけがえのない友であり、また大事な家族の一員である。従って、ペットが死んだ場合、それを可愛がっていた飼い主は、しばしば大きな衝撃を受け、深い悲しみに打ちひしがれることになる。そして、人によっては、可愛がっていたペットが遠く去って行ってしまったという思いにかられ、精神的に落ち込み、長い間立ち直れない場合もある。このような人は、元気を出せと励まして、かえって深く落ち込むことが多い。

【0003】そこで、死んだペットの遺骨（遺灰）なり遺品なりを飼い主の身近に置いておき、ペットを偲ぶやすがとすると共に、遠く去って行ってしまったという思いを少しでも和らげようとするペット遺骨収納具が、種々提案されている。図3は、ペット遺骨収納具の従来例（登録実用新案第3006996号）を示す図である。図3において、20はペンダント、21はペンダント本体、22は吊下具、23はひも、24はふた部、25は空洞部である。ペンダント本体21は十字架を象ったものであり、その頂部には吊下具22が取り付けられ、吊下具22には人の首に掛けるひも23が通されている。ペンダント本体21の内部には、空洞部25が設けられている。空洞部25の一部には、外部と通ずる開口が設けられており、その開口にはふた部24が嵌められている。

【0004】このふた部24を開け、ペットの遺骨なり遺灰を空洞部25の中に入れ、ふた部24を嵌めて密閉する。このようにしたペンダント20を身に付けた飼い主は、死んだペットが常に自分と身近にいと感じることが出来、精神的に落ち込むことより幾らか救われることになる。このほか、ペットの遺骨を収納するようにした従来例としては、板状の形をした位牌が見受けられる（例えば、登録実用新案第3032745号、特許公開2000-201800号）。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記し

た従来のペット遺骨収納具は、遺骨を収納し、身近に置くことが出来るとはいうものの、その姿、形は十字架状であったり板状であったりして、飼っていたペットの姿とはおよそかけ離れた形状をしたものばかりである。そのため、愛撫して長年暮らしたペットを偲ぶには、何となくリアルさに欠け、いまひとつ物足りなさがあるという問題点があった。本発明は、このような問題点を解決することを課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明のペット遺骨収納具は、外観が実際のペットによく似せて作られたペット型人形と、ペットの遺骨や遺品を入れる容器と、前記ペット型人形の内部に設けられ、前記容器を外から挿入し収納し得るようにされた収納部と、該収納部の開口部を開閉自在に塞ぐふた部とから成る構成とした。

【0007】（作 用）ペット遺骨収納具の外観が、実際に飼っていたペットの外観に似たものとされているので、十字架状とか板状とかといった従来のペット遺骨収納具に比べて、より一層愛着感を感じさせる。そのため、死んだ後もなおペットが身近にいてくれるという感じをより強く感じさせ、飼い主の心を和ませ、精神的に落ち込むことをより一層防ぐことが出来る。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。図1は、本発明のペット遺骨収納具を示す図である。図1において、1はペット遺骨収納具、2はペット型人形、3は収納部、4はふた部、5は容器、6は栓体、7はペット遺骨である。ペット型人形2は、実際の犬とか猫とかハムスター等のペットに似せて作られた人形である。収納部3は、このペット型人形2の内部に設けられた凹部であり、その開口部（図1では図示せず。図2参照）は、ペット型人形2の底部などの比較的目立たない箇所に開けられる。容器5は、ペット遺骨7が入れられ、栓体6で塞がれる容器であるが、これが収納部3に収納され、収納部3の開口部はふた部4によって覆うようにされている。ふた部4は、一見してふたとは分からぬよう、ペット型人形2の体表面の一部を成すように作っておくのが望ましい。

【0009】図2は、本発明のペット遺骨収納具への収納要領を説明する図である。符号は図1のものに対応し、3-1は開口部、8、9は係合体、10は矢印である。開口部3-1は、収納部3の開口部である。開口部3-1を覆うふた部4の一端は、ペット型人形2に取り付けられ、他端は自由端とされている。係合体8、9は互いに係合する係合体（例、ホック）であるが、係合体8はペット型人形2の方に取り付けられ、係合体9はふた部4の自由端側に取り付けられる。ペット遺骨7のペット遺骨収納具1への収納要領は、次の通りである。まず、係合体8と9との係合を外し、ふた部4を開く。す

3

ると、開口部3-1が現れる。ペット遺骨7（あるいは遺品）を入れ栓体6で密閉した容器5を、矢印10のように開口部3-1から収納部3へ挿入する。そして、ふた部4を閉じ、係合体8と9とを係合して、ふた部4が容易に開かないようにする。

【0010】このようなペット遺骨収納具1は、何も知らない他人にとっては、何の変哲もない動物の人形にしか過ぎない。従って、居間や鏡台やタンスの上に飾ってあっても、他人に違和感を与えることもないし、不快感を与えることもない。一方、飼い主本人にとっては、単なる動物の人形には留まらず、可愛がっていたペットの遺骨や遺品を内蔵し、死んだペットの分身として身近に在って慰めてくれるところの、深い意味を持った存在となる。

【0011】そして、何よりも従来のペット遺骨収納具と異なる点は、その外観が、実際に飼っていたペットに似た外観をしているという点である（本発明のペット遺骨収納具が市販された場合、実際に飼っていたペットに似た形や色をしているのを選んで買って来るわけであるから、本人の納得のいく程度には似ている。もっと良く似ているものが欲しいという場合には、特別注文して作ってもらうことも出来る。）。即ち、本発明のペット遺骨収納具は、生きていたペットに似た外観をしているの

4

で、リアルさに優れ、次のような作用効果を奏する。まず、目で見ただけでもペットのありし日をより強く思い起こさせるし、頭や背中を撫でたりすることにより、かつてペットを愛撫して可愛がっていた頃の様子を思い起こさせてくれ、より大きな慰めを得ることが出来る。

【0012】

【発明の効果】以上述べた如く、本発明のペット遺骨収納具によれば、外観が実際に飼っていたペットの外観に似たものとされているので、死んだ後もなおペットが身近にいてくれるという感じをより強く感じさせ、飼い主の心を和ませ、精神的に落ち込むことを防ぐことが出来るという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のペット遺骨収納具を示す図

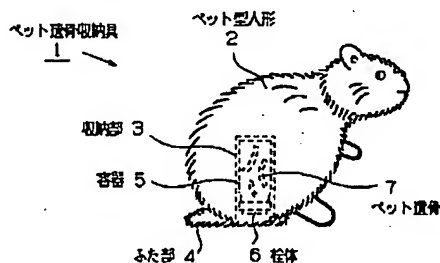
【図2】 本発明のペット遺骨収納具への収納要領を説明する図

【図3】 ペット遺骨収納具の従来例を示す図

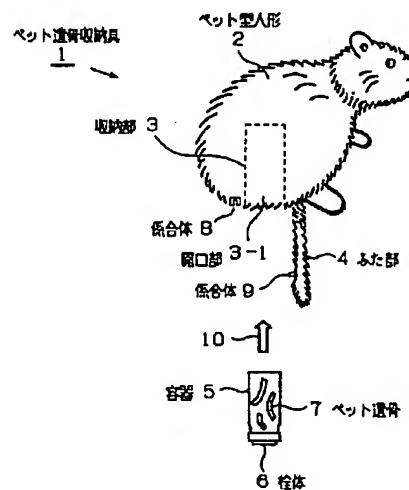
【符号の説明】

1…ペット遺骨収納具、2…ペット型人形、3…収納部、3-1…開口部、4…ふた部、5…容器、6…栓体、7…ペット遺骨、8、9…係合体、20…ペンダント、21…ペンダント本体、22…吊下具、23…ひも、24…ふた部、25…空洞部

【図1】



【図2】



【図3】

